

式辞

モノクロームの冬景色から若草色へ、そして色とりどりの花で飾られる春へ。移りゆく季節の節目となる、弥生三月。

前橋育英での三年間の教育課程を終え、卒業の時を迎えた君たち一人ひとりに心からのお祝いとエールを送ります。

晴れてこの日を迎えた卒業生とご家族を祝し、前橋市副市長 細野初男様、学園名誉理事 中村紀雄様を始め、多数のご来賓の方々がご臨席くださいました。ご多忙の中おいでいただいた皆様には卒業生、教職員とともに心よりお礼申し上げます。

今日までの十八年間、我が子の成長を慈しみ見守り、時に叱咤激励してくださった保護者の皆様、ここに参列がかなわなかった保護者ご家族を含め、前橋育英に対しまして惜しめないご支援とご協力をいただき誠にありがとうございます。皆様のお子様の歩みと、新たな旅立ちをご報告するとともに、心からのお祝いと感謝を申し上げます。

さて、卒業生の諸君、君たちの巣立ってゆく社会は現在どういう状況にあり、今後どうなっていくのでしょうか。グループが推薦する世界屈指の未来学者にダ・ヴィンチ研究所のトーマス・フレイ所長がいます。アメリカ政府や大手企業に

幅広い指導や助言を行っているフレイ所長の予測によると、二〇三〇年までに急速な技術革新によって多くの仕事が機械化・自動化され、世界中の全ての仕事の五〇%が消滅することです。逆に言えば、今は全く存在すらしていない職業が新たに生まれてくるという意味でもあるのですが。例えば、現代の花形産業の一つであるアプリ制作やそのエンジニアといった職業は、スマホが誕生する以前には全く存在していなかったし想像すらできませんでした。

衝撃的な予測ではありますが、人間の物理的労働を代替する高性能で多機能な人型ロボットひとがたの開発・研究や、人の手を借りず自動運転を行う自走自動車の製造を始めとして、進化したテクノロジーが想像もつかない急激な速さで未来を変えてゆくことは確かです。

だとすれば、未来予測は困難を極めるだろうし、例えてみれば、私たちの歩こうとする道は真っ暗な夜道に他なりません。一寸先も見えない程の漆黒の闇であり、どんなリスクが待ち受けているかも分からないのです。しかし、どんなに暗い道であったとしても、明るい懐中電灯があればよく見える、とフレイ氏は言っています。そして、その懐中電灯を用意するのが、未来に生きる君たちの重大な役目なのです。社会の変化に合わせて新たな知識やスキルを身につけていくとともに

に、豊かな想像力を駆使して考えの幅や技術的能力を高め、革新・イノベーションに備えなければなりません。君の常識が変われば、世界はもっと広がります。アメリカの第三十二代大統領フランクリン・ルーズベルトの妻、ファーストレディとして夫の政策にも大きな影響を与えたエレノア・ルーズベルトは「未来は美しい夢を信じる人のためにあります」と述べています。未来は自分で創るものなのです。

また、この世界には容易に実現しない希望、夢、理想があります。医学界にとっての癌や不治の病の撲滅、国際社会における貧困の根絶やあらゆる差別の解消。核兵器の廃絶、戦争やテロの撲滅も人類の悲願でしょう。だからと言って「どうせ一人じゃ実現なんかしない」と考えた途端に、実現の可能性は絶たれてしまいます。「いつかは実現できる」と思うから頑張れるし、「他にもがんばっている人が必ずいる」と信じて頑張るから実現するのです。未来は自分で創るものであり、予言するものではありません。

君たちに訴え続けた「挑」（いどむ）の文字に込めた思いは実現できたでしょうか。実現しなかったにせよ、失敗や挫折の中から勇気を持ってもう一度立ち上がり再挑戦できましたか。確かに、怠惰や臆病の中にも、傷つくことを避けるためのそれなりの思慮深さはあるのかもしれませんが。「勇気を

出せ！」と命令されたから出せるものでもなく、臆病から勇敢へと心を切り替えるスイッチもありません。勇氣は身近な或いは遠いところにある実例を見て感化され、自らの内から汲み出すものです。日本人のノーベル賞受賞者やラグビーワールドカップを戦った日本代表に勇氣を得た人も多くいたでしょう。生徒会の総務に立候補することだって、勇氣は必要です。どんな仕事でも誇りを持って働いている人はいるし、どういうきっかけかは分かりませんが、自分の足で踏み出し歩き続ける人たちがいます。そういう人々に接すると、勇氣が出ます。つまり、勇氣は人から人へと伝染するのです。

ファーストレディであり、人権活動家としても名を知られたエレノアはまた、次のように語っています。

「自分にはできないかもしれないという恐れに、真っ正面から立ち向かうたびに、あなたは強さと自信と経験を勝ち取るのです。だから、できないと思うことに挑戦してご覧なさい。」

予測不能な社会であっても逃げない姿勢で立ち向かい、悩み、もがき苦しむこと、そして互いに尊重しあう個人が協力し触発しあうことを通じてのみ人生をプラスに転じ、個人や社会の成長を実感することができるとは、また、命の大切さを実感するということは、他人の命を尊重し、異質なものを

であつても受け入れ、互いに支え合うことの必要性を改めて認識するということなのです。

最後に、前橋育英で学んだこと、育んだ友情を追い風に、
て未来へと巣立っていく君へ

諸君、勇気を抱^{いだ}き、予測不可能なこの世界に
一步を踏み出していこう。

見えないかもしれないが、不利と思える状況の中に、
計り知れぬ『希望』が必ずある。

祝 卒業

平成二十八年三月一日

学校法人群馬育英学園 前橋育英高等学校

校長 竹渕 敏